

可視化時代におけるデジタルソリューションの展開

Current image technology,

how can we exploit it to the maximum in treatment plans based on digital solutions?

医療法人幸加会スギモト歯科医院（京都府京田辺市） 杉元敬弘

寿谷先生の訃報を平成 26 年 10 月 23 日に西川先生から聞いたのはフロリダの国際デジタル歯科学会に参加している最中でした。なぜか電話が鳴った瞬間に予感がしたことを今でも鮮明に覚えています。生前はいきなり呼びだされることもありましたが、こちらから質問したり相談があった時は必ず時間をとってくれ目白の診療所の 2 階で厳しい指導をしてくれていました。そんな寿谷先生へのご恩に対して、私は寿谷先生の考案された画像診断と咬合器の連動そして計測方法の特許取得について、西川先生に提案し、西川先生が寿谷先生に相談をされたのち、私は特許取得の手続きを始めました。取得にあたり、残念ながら生前に報告することはできませんでしたが平成 29 年 5 月 26 日に約 4 年の時間をかけて「顎偏位是正用アプライアンスの作製方法」として正式に登録されました。これは寿谷先生のコンセプトの新規性と一般的な合理性が同時に認められたということに他ならず PGI の先生方にとっても大きな意味があると思われます。

生前の先生の意味はこの方法の特許をとることによって誰にも邪魔されることなく多くの先生に応用してもらったことでしたので、今回はその特許の内容の共有とそのコンセプトを用いた症例。デジタルを応用したシステムを供覧したいと思います。